

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3194136号
(U3194136)

(45) 発行日 平成26年11月6日 (2014. 11. 6)

(24) 登録日 平成26年10月15日 (2014. 10. 15)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 5 D 5/44 (2006.01)

B 6 5 D 5/66 (2006.01)

B 6 5 D 5/44 M

B 6 5 D 5/66 3 O 1 D

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 実願2014-4561 (U2014-4561)

(22) 出願日 平成26年8月27日 (2014. 8. 27)

(73) 実用新案権者 391065817
富山スガキ株式会社
富山県富山市古鍛冶町5番23号

(74) 代理人 100095430
弁理士 廣澤 勲

(72) 考案者 赤井 智昭
富山県富山市塚原23番の1 富山スガキ
株式会社内

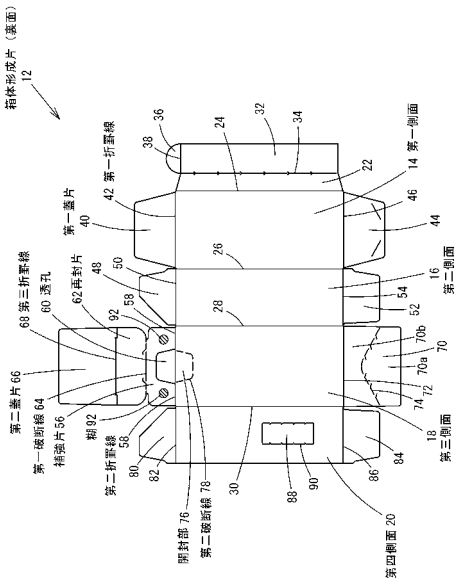
(54) 【考案の名称】 再封可能な包装箱

(57) 【要約】

【課題】 蓋部の開封性が良く、開封した蓋部を容易かつ確実に再封することができるシールエンドカートン型の包装箱を提供する。

【解決手段】 箱体形成片12は、互いに平行に接続された第一乃至第四側面14、16、18、20を備える。第一側面14の一端部に第一蓋片40を備える。第三側面18の一端部に、順に延設された補強片56、第一破断線64で区切られた再封片62、及び第二蓋片66を備える。補強片56の第三側面18側の端部に透孔60が開口している。第三側面18の端部に、第二破断線78に囲まれた開封部76を備える。組み立て状態で、第一乃至第四側面14、16、18、20で筒状体が形成される。補強片56の基端部が折り曲げられて開封部76が透孔60の内側に配され、補強片56の裏面が第三側面18に糊付けされる。再封片62が第一破断線64で折り曲げられて補強片56に当接する。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

一枚のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片から成り、前記箱体形成片には、第一側面、第二側面、第三側面、第四側面が順に互いに平行な折罫線を介して接続され、前記第一側面は、前記接続方向に対して直角な一端部に、第一蓋片が第一折罫線で区切られて延設され、前記第三側面は、前記接続方向に対して直角な一端部に、補強片が第二折罫線で区切られて延設され、前記補強片の先端部には、前記補強片の延出方向長さと等しく同方向に延出した再封片が、第一破断線で区切られて延設され、前記補強片の内側には、前記第二折罫線側の端部に透孔が開口し、前記再封片の先端部には、前記差込片と同じ方向に延出した第二蓋片が、第三折罫線で区切られて延設され、前記第三側面の内側には、前記透孔よりも小さく、指で押圧可能な大きさの開封部が、前記第二折罫線側の端部に、前記透孔及びU字状の第二破断線に囲まれて設けられ、

10

組み立てた状態で、前記第一側面、前記第二側面、前記第三側面及び前記第四側面から成る筒状体が形成され、前記補強片が前記第二折罫線で折り曲げられて前記開封部が前記透孔の内側に配され、前記補強片の裏面が前記第三側面の前記開封部以外の部分の裏面に糊付けされ、前記再封片が前記第一破断線で折り曲げられて前記再封片の表面が前記補強片の表面に当接し、前記第一及び第二蓋片が第一折罫線又は第二折罫線でそれぞれ折り曲げられ、前記筒状体の一方の開口端を塞ぐように前記第一及び第二蓋片を重ねて糊付けされて蓋部が形成され、

前記開封部を押し込んで前記第一及び第二破断線を破断することによって前記蓋部を開封することができ、開封した後、前記再封片が前記筒状体の開口端部分に係合させることによって前記蓋部を再封することができることを特徴とする再封可能な包装箱。

20

【請求項 2】

組み立てた状態で、前記再封片の表面の部分が、前記透孔を通じて前記開封部の裏面に糊付けされている請求項 1 記載の再封可能な包装箱、

【請求項 3】

前記再封片の幅は、前記第一側面又は第三側面の幅と等しいものである請求項 1 又は 2 記載の再封可能な包装箱。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

30

【0001】

この考案は、開封した蓋部を簡易的に再封できるシールエンドカートン型の包装箱に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、この種の包装箱として、例えば特許文献 1 に開示されている包装用箱があった。この包装用箱は、ブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片から成り、箱体形成片の状態で、筒状体を形成する第一側面板、正面板、第二側面板及び背面板が順に接続され、筒状体の一方の開口端を塞ぐ外蓋片及び内蓋片が、それぞれ正面板及び背面板の一端に折罫線で区切られて延設されている。開封操作を容易にするため構成として、正面板の外蓋片側の端部に、折罫線とU字状の破断線に囲まれた開封部が設けられ、この折罫線の両端部に、開封用切込線が設けられている。また、再封可能にするための構成として、内蓋片の先端部に、再封片が折罫線で区切られて延設され、内蓋片の再封片側の端部に、折罫線とU字状の破断線に囲まれた貼付片が設けられている。

40

【0003】

組み立てた状態で、再封片が折り曲げられて内蓋片に重なり、再封片の裏面が貼着片の裏面に糊付けされ、筒状体の一方の開口端を塞ぐように内蓋片が折り曲げられ、その上に外蓋片が重なって糊付けされて蓋部が形成される。

【0004】

開封するときは、指で開封部を押し込んで正面板の破断線を破断し、さらに蓋部を引き

50

上げて開封用切込線を破断し、蓋部を開く。その後、再封する時は、再封片を内蓋片から引き離して破断線を破断し、引き起こした再封片を正面板の開封用切込線側の端部の内側に差し込んで係合させることにより、蓋部を閉じた状態に保持する構造になっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】登録実用新案第3188892号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

10

しかし、特許文献1の包装用箱は、開封部を囲む破断線を最適化する設計が簡単ではない。例えば、比較的破れやすく設計すると、商品輸送時のハンドリングによって不意に破断線が破れてしまうおそれがあり、反対に、破断しにくく設計すると、開封するため開封部を押し込んだとき、破断線が破れる前に正面板が変形してしまうおそれがある。しかも、破断線の破断のしやすさは、破断線の寸法のばらつき、基材（紙など）の厚みや吸湿の度合いのばらつき、開封部が押圧される角度のばらつき等も影響する。したがって、常に良好な開封性が得られるようにするのは難しいものであった。

【0007】

また、この包装用箱は、開封後、開封部が外蓋片の端部に繋がってブラブラするので、見栄えが良くないだけでなく、再封する操作の障害になる可能性もある。

20

【0008】

本考案は、上記背景技術に鑑みて成されたものであり、蓋部の開封性が良く、開封した蓋部を容易かつ確実に再封することができるシールエンドカートン型の包装箱を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本考案は、一枚のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片から成り、前記箱体形成片には、第一側面、第二側面、第三側面、第四側面が順に互いに平行な折罫線を介して接続され、前記第一側面は、前記接続方向に対して直角な一端部に、第一蓋片が第一折罫線で区切られて延設され、前記第三側面は、前記接続方向に対して直角な一端部に、補強片が第二折罫線で区切られて延設され、前記補強片の先端部には、前記補強片の延出方向長さと等しく同方向に延出した再封片が、第一破断線で区切られて延設され、前記補強片の内側には、前記第二折罫線側の端部に透孔が開口し、前記再封片の先端部には、前記差込片と同じ方向に延出した第二蓋片が、第三折罫線で区切られて延設され、前記第三側面の内側には、前記透孔よりも小さく、指で押圧可能な大きさの開封部が、前記第二折罫線側の端部に、前記透孔及びU字状の第二破断線に囲まれて設けられ、

30

組み立てた状態で、前記第一側面、前記第二側面、前記第三側面及び前記第四側面から成る筒状体が形成され、前記補強片が前記第二折罫線で折り曲げられて前記開封部が前記透孔の内側に配され、前記補強片の裏面が前記第三側面の前記開封部以外の部分の裏面に糊付けされ、前記再封片が前記第一破断線で折り曲げられて前記再封片の表面が前記補強片の表面に当接し、前記第一及び第二蓋片が第一折罫線又は第二折罫線でそれぞれ折り曲げられ、前記筒状体の一方の開口端を塞ぐように前記第一及び第二蓋片を重ねて糊付けされて蓋部が形成され、

40

前記開封部を押し込んで前記第一及び第二破断線を破断することによって前記蓋部を開封することができ、開封した後、前記再封片が前記筒状体の開口端部分に係合させることによって前記蓋部を再封することができる再封可能な包装箱である。

【0010】

組み立てた状態で、前記再封片の表面の部分が、前記透孔を通じて前記開封部の裏面に糊付けされていることが好ましい。また、前記再封片の幅は、前記第一側面又は第三側面の幅と等しいことが好ましい。

50

【考案の効果】

【0011】

本考案の再封可能な包装箱は、簡単な構造で組み立て易く、包装の作業性もよいものである。また、組み立てた状態で、開封部の周壁が補強片で補強されることにより良好な開封性を安定的に実現することができ、開封後は、再封片を用いて違和感なく確実に再封することができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】本考案の再封可能な包装箱の一実施形態の組み立て状態を示す図であって、第二及び第三側面の側から見た斜視図（a）、第一及び第四側面の側から見た斜視図（b）である。

10

【図2】この実施形態の包装箱の箱体形成片の裏面側を示す展開図である。

【図3】図2の箱体形成片の組み立て工程を示す図である。

【図4】図2の箱体形成片の組み立て工程を示す図である。

【図5】図2の箱体形成片の組み立て工程を示す図である。

【図6】図2の箱体形成片の組み立て工程を示す図である。

【図7】図2の箱体形成片の組み立て工程を示す図（a）、（b）、（c）である。

【図8】図2の箱体形成片の組み立て工程を示す図（a）、（b）、（c）である。

【図9】この実施形態の包装箱を開封した状態を示す斜視図（a）、カード片を切り離した状態を示す斜視図（b）である。

20

【図10】この実施形態の包装箱を再封した状態を示す図であって、第二及び第三側面の側から見た斜視図（a）、第一及び第四側面の側から見た斜視図（b）である。

【図11】この実施形態の包装箱を廃棄するため分解する操作を説明する図（a）、（b）、（c）である。

【考案を実施するための形態】

【0013】

以下、本考案の再封可能な包装箱の一実施形態について、図面に基づいて説明する。この実施形態の包装箱10は、図1に示すように、略直方体の箱体であり、厚紙等の一枚のブランクシートを一体的に打ち抜いた箱体形成片12を組み立てることによって形成される。

30

【0014】

図2は、箱体形成片12を裏面から見た展開図であり、箱体形成片12は、互いに平行に接続された第一側面14、第二側面16、第三側面18、第四側面20を有している。4つの側面14、16、18、20は、接続方向と直交する幅方向の長さが同じであり、接続方向の長さは第一及び第三側面14、18が長くて互いにほぼ等しく、第二及び第四側面16、20が短くて互いにほぼ等しい。第一側面14側の端部には、包装箱10の組立状態で第四側面20側の端部の裏面に糊付けされる糊付け片22が設けられている。糊付け片22、4つの側面14、16、18、20は、各々折罫線24、26、28、30で区切られている。

【0015】

40

糊付け片22は、折罫線24から離れるにしたがって幅が狭くなる台形に形成されている。糊付け片22の折罫線24と反対側の端部には、第一カード部32が第三破断線34で区切られて設けられている。第一カード部32は、接続方向と直行する幅方向に長い矩形であり、第一カード部32及び糊付け片22を合わせた大きさは、箱体形成片12の組み立て状態で糊付け片22が糊付けされる第四側面20よりも小さいものである。第一カード部32の、第三破断線34に交差する一方の側縁部には、摘み部36が折罫線38を介して設けられている。摘み部36は、外側へ向かって半円状に膨出する形状である。

【0016】

第一側面14の一端部には、先端側の幅が狭くなっている台形状の第一蓋片40が延設され、第一折罫線42で第一側面14と区切られている。第一蓋片40の延出方向長さは

50

、第二及び第四側面 1 6 , 2 0 の接続方向長さの約 2/3 程度である。第一側面 1 4 の他端部には、第一蓋片 4 0 と同形の蓋片 4 4 が延設され、折罫線 4 6 で第一側面 1 4 と区切られている。

【 0 0 1 7 】

第二側面 1 6 の、第一側面 1 4 の第一折罫線 4 2 に連続する端部には、フラップ 4 8 が延設され、折罫線 5 0 で第二側面 1 6 と区切られている。第二側面 1 6 の他端部には、フラップ 5 2 が延設され、折罫線 5 4 で第二側面 1 6 と区切られている。

【 0 0 1 8 】

第三側面 1 8 の、第二側面 1 6 の折罫線 5 0 に連続する端部には、補強片 5 6 が延設され、第二折罫線 5 8 で区切られている。補強片 5 6 の延出方向長さは、第二及び第四側面 1 6 , 2 0 の約 1/2 程度である。補強片 5 6 の内側には、第二折罫線 5 8 側の端部に、台形状の透孔 6 0 が開口している。

10

【 0 0 1 9 】

補強片 5 6 の先端部には、再封片 6 2 が延設され、第一破断線 6 4 で区切られている。再封片 6 2 の延出方向長さは、補強片 5 6 の延出方向長さとはほぼ等しい。再封片 6 2 は、補強片 5 6 との境界部分の両端が内向きに略 V 字状に切り欠かれ、切り欠かれた部分の両角部が円弧状になっている。

【 0 0 2 0 】

再封片 6 2 の先端部には、略矩形の第二蓋片 6 6 が延設され、第三折罫線 6 8 で再封片 6 2 と区切られている。第二蓋片 6 6 の延設方向長さは、第二及び第四側面 1 6 , 2 0 の接続方向長さとはほぼ等しい。再封片 6 2 の中央部には、透孔 6 0 を介して対面する、第三側面 1 8 の裏面との接触を確実にするためのエンボスが形成されていても良い。

20

【 0 0 2 1 】

第三側面 1 4 の他端部には、第二蓋片 6 6 と同形の蓋片 7 0 が延設され、折罫線 7 2 で第三側面 1 8 と区切られている。蓋片 7 0 は、延出方向のほぼ中央部に V 字状の第四破断線 7 4 が設けられ、先端側部分 7 0 a と基端部側部分 7 0 b とに区切られている。

【 0 0 2 2 】

さらに、第三側面 1 8 の内側には、第二折罫線 5 8 側の端部に、透孔 6 0 よりも小さく、指で押圧可能な大きさの開封部 7 6 が、透孔 6 0 及び U 字状の第二破断線 7 8 に囲まれて設けられている。第三側面 1 8 の開封部 7 6 には、透孔 6 0 を介して対面する、再封片 6 2 の表面との接触を確実にするためのへこみが形成されていても良い。

30

【 0 0 2 3 】

第四側面 2 0 の、第三側面 1 0 の第二折罫線 5 8 に連続する端部には、フラップ 8 0 が延設され、折罫線 8 2 で第四側面 2 0 と区切られている。第四側面 2 0 の他端部には、フラップ 8 4 が延設され、折罫線 8 6 で第四側面 2 0 と区切られている。

【 0 0 2 4 】

さらに、第四側面 2 0 の内側には、中央部からやや折罫線 8 6 寄りの位置に、略矩形の第二カード部 8 8 が設けられている。第二カード部 8 8 は、第五破断線 9 0 で囲まれて形成されている。

40

【 0 0 2 5 】

箱体形成片 1 2 の表面には、内容物の名前や広告等の様々な情報が印刷されている。第一カード部 3 2 には、例えば、製品名や使用者が読むべき商品の詳しい情報等が印刷される。第二カード部 8 8 は、例えば、後述する商品を包装する工程で使用期限や商品の製造番号等が印刷される。

【 0 0 2 6 】

次に、表示片付き包装箱 1 0 の組み立て方法の一例を説明する。ここでは、箱体形成片 1 2 の表面が凸になる折り方を正折り、そして裏面が凸になる折り方を逆折りと称する。

【 0 0 2 7 】

まず、図 2 に示すように補強片 5 6 の裏面に糊 9 2 を塗布し、図 3 に示すように第二折罫線 5 8 を正折りし、開封部 7 6 が透孔 6 0 の内側に配された状態で、補強片 5 6 の裏面

50

を第三側面 18 の開封部 76 以外の部分の裏面に糊付けする。これにより、第三側面 18 の開封部 76 の周縁部分が補強片 56 と重なって補強される。その後、図 3 に示すように再封片 62 の表面に糊 94 を塗布し、図 4 に示すように第一破断線 64 を逆折りし、再封片 62 の表面を開封部 76 の裏面に糊付けする。このとき、再封片 62 の表面側に凸のエンボスが形成されていると、より確実に糊付けされる。同様に開封部 76 に、裏面側へ凸のへこみが形成されている場合も、接着が確実になる。

【0028】

次に、図 5 に示すように第四側面 20 の端部及び第二カード部 88 の裏面に、それぞれ糊 96, 98 を塗付する。そして、折罫線 24 を正折りし、さらに折罫線 28 を正折りすることによって、第四側面 20 の端部の裏面を糊付け片 22 の表面に糊付けし、第二カード部 88 の裏面を第一カード部の表面に糊付けする。箱体形成片 12 は、この折り畳まれた状態で出荷される。

10

【0029】

次に商品を収容して包装する工場等において、折罫線 24, 26, 28, 30 を各々 90° に正折りして四角形の筒状体を形成する。そして、図 7 (a) (b) (c) に順に示すように、折罫線 54, 86 でフラップ 52, 84 を各々 90° に正折りし、折罫線 46 で蓋片 44 を 90° に正折りする。その後、蓋片 70 の先端側部分 70a に糊 100 を塗布し、折罫線 72 で蓋片 70 を 90° に正折りし、蓋片 70 の裏面を蓋片 44 の表面に糊付けする。これによって、筒状体の一方の端部を閉鎖され底部が形成されるので、開放している他端部から箱体の中に商品を入れる。

20

【0030】

次に、図 8 (a) (b) (c) に順に示すように、折罫線 50, 82 でフラップ 48, 80 を各々 90° に正折りし、折罫線 42 で第一蓋片 40 を 90° に正折りする。その後、第二蓋片 64 の裏面に糊 102 を塗布し、第三折罫線 68 で第二蓋片 66 を 90° に正折りし、第二蓋片 66 の裏面を第一蓋片 40 の表面に糊付けする。このとき、第一カード部 32 の摘み部 36 は、箱体の蓋部に押されて折罫線 38 で正折りされ、箱体の内側に収容される。

【0031】

その後、収容した商品の使用期限や製造番号等を第二カード部 88 に印刷する。これで商品の包装作業が終了し、図 1 に示す組み立て状態になる。

30

【0032】

次に、この包装箱 10 を開封及び再封する操作について説明する。開封するときは、第三側面 18 の開封部 76 を指で押し破る。このとき、開封部 76 の周縁部分が補強片 56 により補強されているので第三側面 18 が変形しにくく、第二破断線 78 を容易に破断させることができる。開封部 76 を押し破ると、第一破断線 64 もほぼ同時に破断し、再封片 62 が補強片 56 から切り離される。開封部 76 は第三側面 18 から分離するが、再封片 62 に糊付けされているので、ゴミにはならない。そして、再封片 62 及び第二蓋片 66 を摘んで引き上げると、図 9 (a) に示すように筒状体の端部が開放し、中の商品を取り出すことができる。

【0033】

40

また、第一カード部 32 の摘み部 36 を指で摘まんで第四側面 20 から引き離すと、図 9 (b) に示すように、第三破断線 34 が破断して、第一カード部 32 が糊付け片 22 から分離する。このとき、第四側面 20 の第二カード部 88 が第一カード部 32 に糊付けされているため、第四破断線 84 もほぼ同時に破断し、第二カード部 88 が第四側面 20 から分離する。その結果、第一カード部 32 と第二カード部 88 とが一体に箱体から切り離される。第一カード部 32 及び第二カード部 88 は、商品の製品名や使用期限等の重要な情報が記載されているので、例えば、商品を包装箱 10 から取り出して保管棚等で保管する場合、商品識別用の表示カードとして使用することができる。

【0034】

開封後、包装箱 10 の中に商品を戻して再封するときは、図 10 に示すように、フラッ

50

プ４０，８０と第三側面１８との隙間に再封片６２を差し込んで係合させることによって筒状体の端部を閉鎖する。再封片６２は、切り離された第一破断線６４側の両角部が円弧状に形成されているので、当該隙間に容易に差し込むことができる。第三側面１８の開封部７６が除去された開口部は、再封片６２によって塞がれる。開封部７６は、再封片６２の表面に糊付けされているので、ブラブラせずに見栄えが良く、再封する操作の障害にもならない。

【００３５】

再封片６２は、その幅が第三側面１６の幅いっぱいに広く設定するのが好ましく、再封片６２が第三側面１８の内面に広い面積で当接させることによって、より安定に係止することができる。また、第三折罫線６８の両端から一对の切り込みを設けておけば、切り込みとフラップ４８，８０の端縁とが互いに係合するので、閉鎖状態をより確実に保持することができる。

10

【００３６】

開封後、包装箱１０を廃棄するため分解するときは、図１１（ａ）（ｂ）（ｃ）に順に示すように、底部の蓋片７０の中央部を押し込んで、第四破断線７４を破断させる。すると、底部の閉鎖が簡単に解除され、包装箱１０を薄く折り畳むことができるようになるので、コンパクトな形で廃棄することができる。

【００３７】

以上説明したように、包装箱１０は、簡単な構造で組み立て易く、包装の作業性もよいものである。また、組み立てた状態で、開封部７６の周壁が補強片５６で補強されることにより良好な開封性を安定的に実現することができ、開封後は、再封片７６を用いて違和感なく確実に再封することができる。また、再封機能を有しない通常のシールエンド型の包装箱に比べ、箱体形成片から延出する部分の追加が少ない（補強片５６及び再封片６２だけ）ので、一枚のブランクシートから多くの箱体形成片１２を打ち抜くことができる。

20

【００３８】

なお、本考案の包装箱は上記実施形態に限定されるものではない。例えば、包装箱１０では、第二蓋片６６を大型の外蓋片、第一蓋片４０を小型の内蓋片としているが、反対に、第一蓋片４０を大型の外蓋片、第二蓋片６６を小型の内蓋片に変更してもよい。また、商品識別用の表示カードが不要であれば、第一カード部３２、第二カード部８８及びこれに関連する構成を省略してもよい。また、箱体の分解を容易にするための第四破断線７４も、必要に応じて省略してもよい。さらに、開封部７６を再封片６２に固定するための糊９４は、組み立て作業の効率化のため省略してもよい。これらの変更を加えた場合でも、上述した良好な開封性及び再封性を得ることができる。

30

【００３９】

箱体の大きさ、素材、各部材の形状等は適宜変更可能である。また、天板部側だけでなく、底部側にも上記のような補強片及び再封片を設け、筒状体の両側を開封及び再封可能な構造にしてもよい。

【符号の説明】

【００４０】

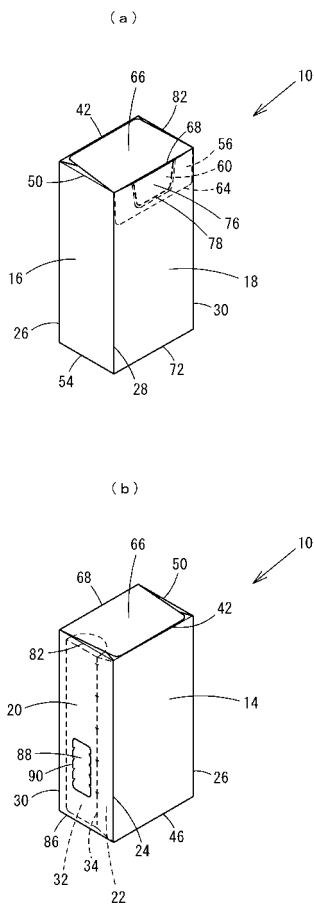
- １０ 再封可能な包装箱
- １２ 箱体形成片
- １４ 第一側面
- １６ 第二側面
- １８ 第三側面
- ２０ 第四側面
- ２２ 糊付け片
- ４０ 第一蓋片
- ４２ 第一折罫線
- ５６ 補強片
- ５８ 第二折罫線

40

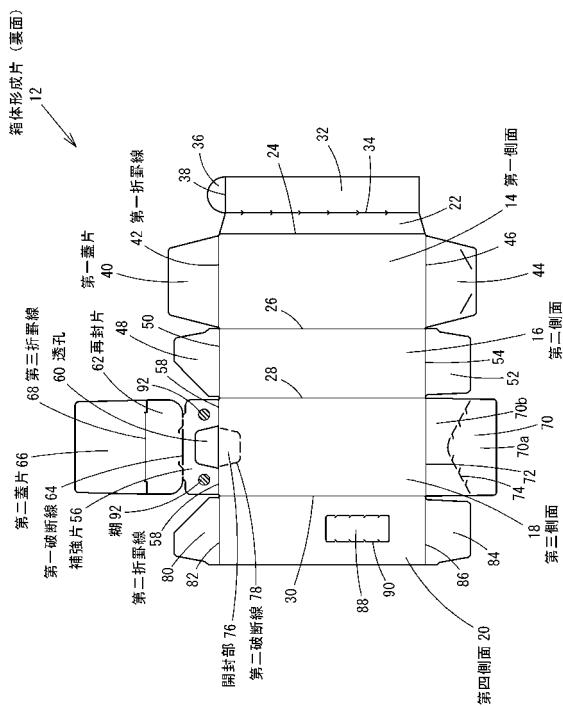
50

- 6 0 透 孔
- 6 2 再 封 片
- 6 4 第 一 破 断 線
- 6 6 第 二 蓋 片
- 6 8 第 三 折 罅 線
- 7 6 開 封 部
- 7 8 第 二 破 断 線
- 9 2 , 9 4 , 1 0 2 糊

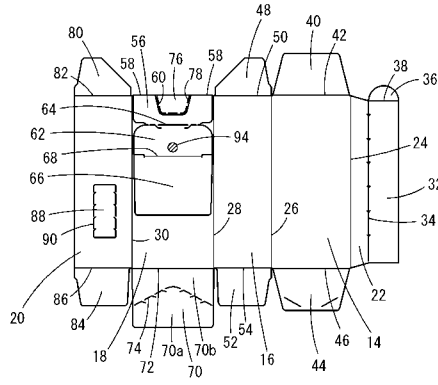
【 図 1 】



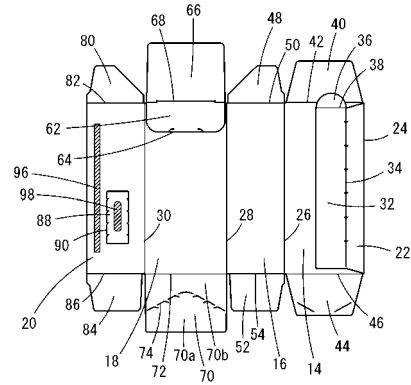
【 図 2 】



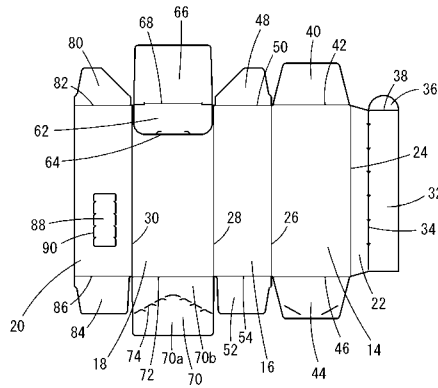
【図 3】



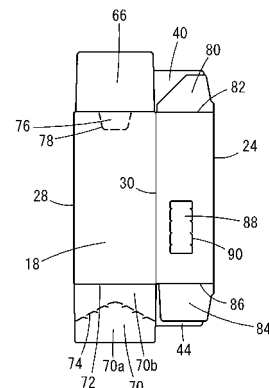
【図 5】



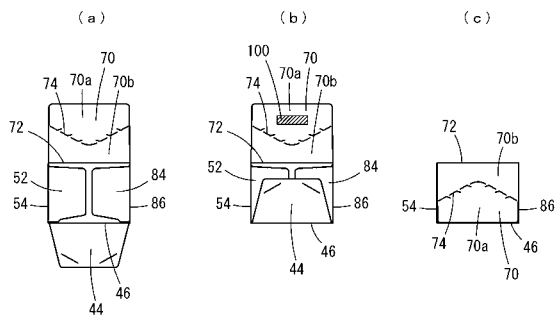
【図 4】



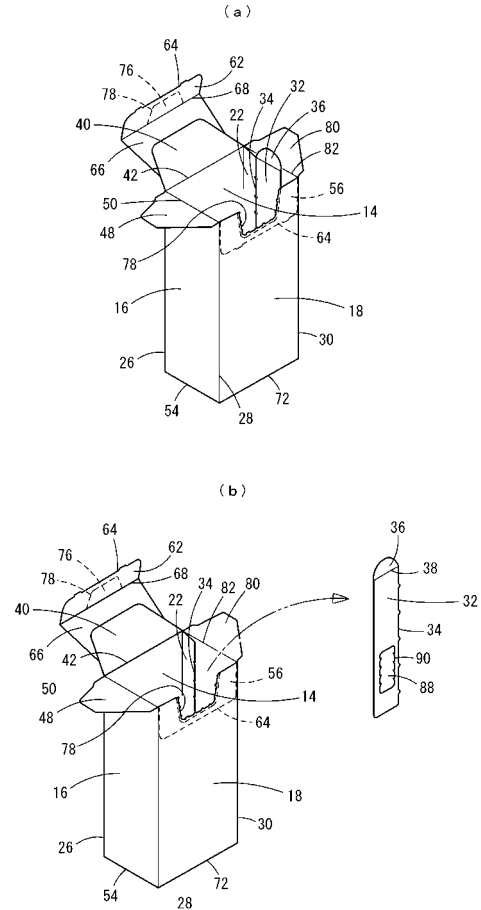
【図 6】



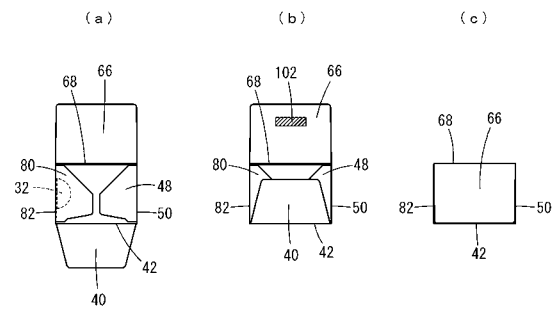
【図 7】



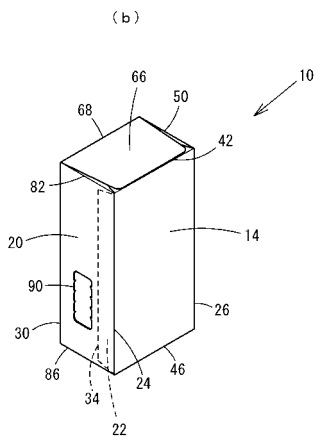
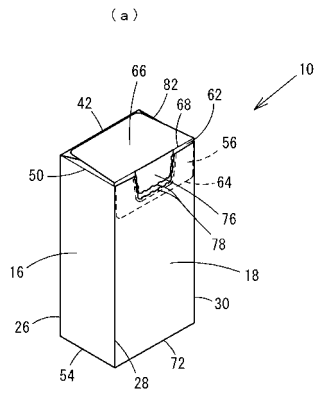
【図 9】



【図 8】



【図 10】



【図 11】

